

様式第3号(第9条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和4(2022)年度第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会		
開催日時	令和4(2022)年6月29日(水) 午後2時から午後4時30分まで		
開催場所	みよし市役所 6階 601・602会議室		
出席者	委員長：大村 恵 副委員長：宮田 安弘 委員：杉浦美智子 大地由美子 平尾 章芳 春山 士朗 鈴木 誠直 辻 有記衣 佐々木真弓 熊谷 彩 増岡 美菜子 富樫佐智子 鈴木 睦子 柴田 雅文 内田 弥生 近藤 憲司 事務局：今瀬教育長 増岡教育部参事 木戸教育部次長兼教育行政課長 新美教育部参事兼学校教育課長 加藤子育て健康部次長兼子育て支援課長 林スポーツ課長 村山資料館長 伊藤給食センター所長 二子石生涯学習課長 菅田学校教育課主幹 大成学校教育課主幹 多治見学校教育課主幹 金丸学校教育課副主幹 山内学校教育課地域連携担当 (計30名)		
次回開催予定日	令和5(2023)年2月		
問合せ先	みよし市教育委員会学校教育課 電話：0561-32-8026 ファックス：0561-34-4379 メール：gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
審議経過			
新美教育部参事兼 学校教育課長	本日は、ご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今から「第1回 みよし市教育振興基本計画推進委員会」を始めさせていただきます。初めに礼の交換をします。みなさま御起立ください。 一同 礼 よろしく願いいたします。御着席ください。		
新美教育部参事兼 学校教育課長	はじめに、本日御参集の皆様へ「みよし市教育振興基本計画推進委員」の委嘱状を交付させていただきます。委員を代表して愛知教育大学の大村恵様、御起立をお願いします。		

	<p>教育長から委嘱状を手渡し</p> <p>大変恐縮ではございますが、時間の都合により、他の委員のみなさまには、机上に委嘱状を置かせていただいております。お名前を御確認ください。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p> <p>教育長</p>	<p>それでは、主催者を代表して教育長よりあいさつを申し上げます。</p> <p>教育長 挨拶</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p> <p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p> <p>近藤委員</p>	<p>報告及び協議に入る前に一人ずつ自己紹介をお願いします。要項の１ページに名簿がありますので、その順でお願いします。なお、事務局につきましては、お手元の座席表にて紹介に代えさせていただきます。</p> <p>委員自己紹介</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次に、本委員会の委員長・副委員長を決めたいと思います。委員長・副委員長の決定について、何か案のある方はお見えになりますか。</p> <p>平成２６年から長年にわたり、本委員会の委員長をお務めいただいている愛知教育大学教育ガバナンス講座教授・大村恵先生に委員長を、小中学校校長会代表である南中学校長・宮田安弘校長先生に副委員長をお願いすることを提案します。</p> <p>挙手全員</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p> <p>大村委員長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、挙手全員により、委員長を愛知教育大学の大村恵先生に、副委員長を小中学校校長会の代表である宮田安弘校長先生にお願いします。大村先生、委員長の席に御移動ください。</p> <p>大村先生、一言御挨拶をお願いいたします。</p> <p>大村委員長 挨拶</p>
大村委員長	<p>それでは、要項の次第に沿って進めていきます。今日は第１回の集まりですので、本委員会の趣旨と、一昨年度中間見直しを行った教育振興基本計画の全体像について改めて理解していただくこと。そして、「みんなで育てるみよしっ子」を推進していくにはについて協議していくことを目的としています。</p> <p>はじめに、事務局から「みよし市教育振興基本計画の概略」から説明していただき、その後、「２０の作戦PlusOne」について、関係課から説明していただきます。全施策については、</p>

	<p>関係課からの説明は行いませんので、関係課の作戦の説明とタイアップさせてご覧ください。</p> <p>その後、いったん休憩を取った後、「みんなで育てるみよしっ子」の充実に向けてグループ協議をします。</p>
<p>大村委員長</p> <p>事務局・大成</p>	<p>それでは、はじめに「3みよし市教育振興基本計画の概略」「4本委員会の役割」「5計画推進の流れ」について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>みよし市教育委員会学校教育課指導主事の大成です。</p> <p>まずは、「3みよし市教育振興基本計画の概略」について説明します。要項の2ページを御覧ください。本市では、平成15年に「三好町教育基本計画」を策定し、教育環境の整備と充実を図ってきました。そして、平成26年・27年には、2か年をかけて、新たな「みよし市教育振興基本計画—みよし教育プラン—」の策定し、さらに、これまでの成果と課題を踏まえ、時代の変化に対応した教育の在り方を見直し、令和3年3月に「みよし市教育振興基本計画の【改訂版】」を策定しました。本計画は、教育委員会が所管する学校教育及び社会教育の分野を中心に、全ての市民の教育に関わる計画となっています。計画期間が平成28年度から令和7年度の10年間と示されておりますが、この期間の中間見直しとして令和2年度改訂しました。計画の基本理念は、「学ぶ楽しさで、人と人とをつなぐ」ことで、目指す人間像は、「生涯にわたって自らを磨き続け、仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、より良い次代を創り出す人」です。本委員会の役割といたしましては、「みよし市教育振興基本計画【改訂版】」が着実に実行されるよう、プランの進捗状況を本日ここにいらっしゃる全委員で確認し、より改善していくことです。本プランのPDCAサイクル、P計画、D実行、C評価、A改善という4段階の活動を繰り返し行うことで、継続的に改善していくことを目指しています。計画推進の流れといたしましては、要項の3ページを御覧ください。本年度は本日の第1回と令和5年2月の第2回を予定しています。本日は本年度の計画について検討し、2月に本年度の取組について評価を行うとともに改善点を検討していきます。また、本年度は市民アンケートも実施します。市民の方々の評価を聞き、計画の推進状況を評価したり、見直しを図ったりしていきます。令和6年度からは、策定委員会を組織し、再度市民アンケートを実施するとともに、令和7年度には新たな計画を策定します。そして、令和8年度以降は、新たな計画を推進していくこととなります。以上、簡単ではありますが、本計画の概略及び委員会の役割について申し上げます。</p> <p>ただ今の説明について、何か質問や確認したいことはありますか。</p> <p>質問なし</p>
大村委員長	では、続いて、6の協議事項に入ります。

<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>はじめに、重点施策である「20の作戦PlusOne」の作戦⑩までについて、一つの作戦につき1分以内で説明をお願いします。作戦PlusOneから順番にお願いします。全施策につきましては、各課の説明とともに、御覧ください。</p> <p>なお、作戦⑩までの説明が終わったところで、委員の皆様から御意見を伺います。それでは、学校教育課からお願いします。</p> <p>お手元の右上に資料1と書かれた資料を御覧ください。まず初めに、作戦plusOneでございます。重点施策、「みんなで育てる、運用執行の充実と周知啓発」について御説明いたします。本施策は、みんなで育てるみよしっ子の理念を、家庭、地域、学校で共有し、それぞれの役割を果たしながら、子育てに関わっていくことができるようにするための施策でございます。みよし教育プランの24ページ、25ページをご覧くださいますと、みんなで育てるみよしっ子の内容がまとめてございます。令和2年度の推進委員会で、みんなで育てるみよしっ子の内容について検討し、作成をしたものでございます。本年度中にみんなで育てるみよしっ子についてのパンフレットを作成して、家庭学校地域へ配布する予定でございます。令和5年度以降も、内容や周知の方法を検討して、施策を推進して参ります。</p> <p>のち程協議の方でも、担当の方から御説明をさせていただく予定でございます。</p>
<p>加藤子育て支援ブ次長 兼子育て支援課長</p>	<p>子育て支援課長の加藤です。続きまして作戦1です。重点施策としまして、「子育て総合支援センターでの交流相談活動の推進」になります。子育て総合支援センターでは、子育ての触れ合い広場や情報コーナー、窓口相談等を行っております。</p> <p>令和2年までの取組のところにありますように、ファミリーサポートセンターこちらの方も、現在こちらの方で事務局を展開させていただいております。また、情報発信としまして、みよし市子育て情報ナビ「みよびよ」によりまして、広く情報を発信しているところでございます。令和5年の行動予定のところを見ていただきたいのですけれども、児童育成計画、現在これを2020年から2024年で実行させていただいておりますけれども、次の改定に備えまして、令和5年度には、児童育成計画の中でニーズ調査、いわゆるアンケートを実施しながら、ニーズを確認させていただきたいと思っております。また、これを踏まえまして相談内容等を分析しながら行っているところであります。</p> <p>続きまして作戦の2でございます。重点施策が、「放課後児童クラブによる子育て支援の拡充」になります。現在放課後児童クラブ、全小学校区で展開をさせていただいております。民間委託により、実行をさせていただいているところになります。また今申し上げた通り、民間委託で全施設させていただいているというところですが、令和2年からなんでも、夏季休業、夏休み期間中については、やはり多くの</p>

<p>木戸教育部次長兼 教育行政課長</p>	<p>方が、児童クラブの方にというご要望を踏まえまして、現在、2教室を新たに各教室は増設させていただいております。④の令和4の行動予定のところにあります通り、今、移送という形でやらさせていただいております。待機児童が発生しているところについては、小学校から違う小学校区の方にタクシー送迎し、待機がないような形で進めさせていただいております。ただ、それでも待機が出ている状況は、まだ変わっておりませんので、さらにこの事業については拡充を発信したいというふうに考えているというところでございます。</p> <p>教育行政課長の木戸と申します。よろしくお願いします。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>作戦3「子育てに役立つ情報をたくさん発信します」について説明をさせていただきます。昔と比べまして、身近な人から子育ての情報を得ることというのが難しくなっているこの状況で、必要としている人へ、子育ての情報を届けることが課題となっております。そんな中で重点施策としまして家庭の教育力向上のための啓発活動の推進というところを掲げて、みよし市の家庭教育に対する指針の見直しを行いまして、家庭教育だよりはぐくみの内容について拡充を図っていくことを通しまして、家庭教育力の向上を図っていくというのが、本事業の施策の概要となっております。右のページを御覧いただいて令和3年度の実績としましては、広報みよしで2か月に1回で、家庭教育だよりはぐくみを掲載しております。合わせまして、昨年度はみよし市の家庭教育に対する指針の一部の見直しも行いました。今年度、引き続き、家庭教育材料の内容について、どんなことが要望されているか、ニーズを把握し、充実を図っていきますとともに、今後も広報への掲載を予定しております。その他、振興計画としましては、令和7年に親子ガイドブックを作成して配布できればと考えております。</p> <p>続きまして作戦4でございます。重点施策、「困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実」についてでございます。本施策につきましては、相談員等関係者の連絡協議会を開催いたしまして、多岐にわたる相談に対応できるようにしたり、相談機関の周知を図ったりし、施策を進めて参りました。令和4年度の行動予定でございますが、今年度年々増加する、相談の需要に対応いたしまして、専門相談員の相談時間を増加し、多岐にわたる相談に、各関係課と連携を図りながら進めているところでございます。また、みよし市福祉総合相談センターの取り組みを推し進め、関係各課と協力をしながら、個別支援の充実方法を検討して参ります。</p> <p>続きまして、作戦5の重点施策として「主体的対話的で深い学びを実現するための教員の資質向上への取り組み」でございます。本施策につきましては、新学習指導要領に対応した初任者研修、教員2・3年目研修を実施したり、教科領域等指導員の複数配置によって、さらなる授業改善を進めたり、教員の資質向上に努めて参りました。本年度以降、ICTの活用</p>

	<p>をテーマとした研修の実施、教科領域等指導員の一部教科での複数配置、指導と評価の一体化の具体例の周知などに取り組むことで、教員の指導力向上に努め、主体的対話的で深い学びの実現を目指して参ります。</p> <p>続きまして、作戦、6－1、重点施策「授業におけるICT活用の推進」についてでございます。本施策につきましては、令和2年度に小中学生に配布いたしました1人1台タブレットや、大型提示装置の活用を推進していくための施策でございます。これまで、ICT研修会を実施したり、ICTの活用事例集を作成したりして参りました。今年度以降も、研修会や事例集のさらなる充実、学習用タブレットの有効活用に取り組む、子どもがICTを活用する力をさらに育てて参ります。</p> <p>続きまして作戦6－2の重点施策「新たな学びを支えるICT教育環境整備の推進」についてでございます。令和3年度につきましては、タブレットの持ち帰りの練習を実施したり、各家庭に使用方法などを明記したガイドブックを配布したり、活用面での素地を整えました。モバイルルーターの試験運用を行い、以降、それを校外学習ですとか、家庭への持ち帰りの有効性を確認いたしました。本年度も、各学校にモバイルルーターを貸し出し、校外学習等、どこでも学習活動が有効に進められるように取り組んで参ります。</p> <p>続きまして、作戦7、重点施策「ALT、小学校外国語対応非常勤講師による、外国語指導の充実」についてでございます。現在、小学校で行う外国語科及び外国活動のほとんどの事業で、ALTもしくは市の外国語活動対応非常勤講師が担任と協力をいたしまして、授業を実施しております。中学校におきましても、年間35時間は、ALTとのティームティーチングによる事業を実施しております。令和3年度におきましても、コロナ禍ではありましたが、小学生のイングリッシュキャンプをオンラインという形で実施をいたしました。今後も生きた英語に触れる外国語活動が主学習の充実を図って参ります。</p> <p>続きまして、作戦8、重点施策「道徳教育の研究推進」についてでございます。みよし市の小中学校では、どの学校でも、特別の教科道徳の授業研究を盛んに行ったり、または教育活動全体を通して、道徳教育を推進したりしております。また、情報モラルに関する授業実践の資料を蓄積したり、市教委主催の道徳教育推進教師研修会を実施したりしてきました。今後も人権、多様性の理解などを中心に、道徳教育をさらに推進して参ります。</p> <p>続きまして作戦9 重点施策「みよし市体力向上計画の推進」についてでございます。令和3年度につきましては、いいじゃんスポーツチャレンジinみよしの8の字飛びの通信制大会を開催いたしました。それにより、子どもたちが自主的に運動しようとする意欲を高めることに繋がったと思っております。今年度につきましても、いいじゃんスポーツチャレンジinみよしを継続するとともに、種目を増やすなど、充実</p>
--	---

	<p>を図って参ります。また、ウォームアップドリル等の運動遊び集を蓄積しておりますが、その内容をさらに検討して進めていきたいと思っております。</p> <p>続きまして、作戦10の重点施策「個別支援を要する子どもへのサポート体制の充実」でございます。これまでも、個別の教育支援計画、指導計画を各学校で作成し、子どもたちにとって切れ目のない充実した支援ができるよう、施策を進めて参りました。令和3年度につきましては、小学校へ入学する前の支援を充実させるために、外国籍の未就学の子どもたちに対しまして、年間16回のプレスクールを実施いたしました。今年度以降も、このプレスクールを継続させていくにさせていくとともに、個別の教育支援計画、指導計画がさらに有効に活用できるよう、その方法を、さらに検討して参ります。以上でございます。</p>
大村委員長	<p>ありがとうございました。それでは、ここで一旦切りまして、皆様から御意見御質問いただきたいと思います。それではいかがでしょうか。</p> <p>それでは私の方から、まず一つお願いいたします。体力向上に関わることかと思うんですけども、作戦の9番になります。コロナ禍の影響で、それ以前からだったんですけども愛知県の子どもたちの運動能力、或いは外遊びが心配だといえますか、他の都道府県と比べても、やはりそれが少ないといえますか、能力的にも少し下がっているということがありますが、コロナ禍で一層それが進んでいるのではないかという危惧があります。今の医師会がポスターを作っておりまして、遊びは子どもの主食ですというポスターです。地域の外遊びができる場所を作るのは大人の責任ですと、そこまで書きます。実際今、みよし市の子どもたちが、そういった外遊びができる環境がどれぐらいあるのかとか、子どもたちの体力向上は、体育の時間だけの問題ではないと思いますので、日常的に子どもたちが遊べる場がどれぐらいあるかということを、もし調べてることがあれば、ちょっと教えていただきたいと思うのですが、そういう調査はありますでしょうか。</p>
林スポーツ課長	<p>スポーツ課長林です。よろしくお願いします。</p> <p>子どもたちの日常的に遊べる場所に特化したものは特にはないと思います。ただ、総合型スポーツクラブですとか、スポーツ協会が子どもたちの参加しやすいようなレクリエーションの競技や教室等を開催して、入ってもらって活動してもらうようにしております。みよし市のスポーツ推進委員が、できるだけ皆さんが、どんな方でも参加しやすいようなスポーツを広めるということで、リフレッシュスポーツの交流会等を開催しておりますので、そういったところの活動が、スポーツ課としては、実施しているところです。以上です。</p>
教育長	<p>大きな公園ではないですが、各行政区地域には、子どもたちがちょっと遊んだり、簡単なボール遊びができたりする地</p>

増岡教育部参事	<p>区公園が、歩いて行ける所にたくさんあります。三好池も含めて、公園の面積を市民の人口に割り当てると、みよし市は県内でも有数の公園の広さがあると言われています。</p> <p>他の自治体に比べて、児童遊園それから、各行政区にある児童館や集会所、こういうものは本当に他市町に比べて充実しているのが、みよし市のストロングポイントだと思います。ただし、そこで遊ぶ時間が子どもたちにない。それが大きな問題ではないかっていうことを、日々感じております。以上です。</p>
大地委員	<p>コロナ禍で、地域にある児童館とか、ふれあいセンターとかは使えない時もあったのですが、ここの作戦9に書いてあります「いいじゃんスポーツチャレンジinみよし」という取組のおかげで、8の字跳びができない子も、本当に家に帰って自分の家の前で縄跳びをやるとか、やはりそういうふうに、学校単位で基礎を得ることを考えていただいたので、自分なりに子どもひとりでも縄跳びをやるとか、すごく励みになってよかったと思います。</p>
大村委員長	<p>ありがとうございます。遊び場のことについては、一つ、大事なポイントがありまして、それは何かというと、今東京の方で少し動きもあるんですが、ボール遊びとか、場所があっても、なかなか子どもたちの遊びが制限されてしまって、サッカーであるとか、野球であるとかダイナミックな遊びができないってことがありまして、東京ではそれで子どもが区議会に請願を出して、それが採択されるってことも今あります。そうした子どもたちの活発な遊びができるような、そういうことは大丈夫でしょうか。多分小さな公園だと、もう駄目という禁止されてるのかなと思いますが、それぞれの学区にそうしたダイナミックな遊びができるような、そういった場所がございますでしょうか。</p>
春山委員	<p>三好丘小学校春山でございます。小学校は、授業が終わると子どもが、学校の校庭でよく遊んでおります。昨日も、子どもが帰ったあと、保護者が学校でもノックをやっていたり、子どもが5、6人集まったり、あとは放課後児童クラブの子どもたちは、4時以降の時間帯で、運動場で本当に楽しそうに今活動していたりという状況をよく見ます。また、地域の公園では中学年以下の子どもたちが、よく集まって、目を合わせると先生で手を振ってくれます。楽しそうに遊んでいる姿はよく見かけます。結構ボール遊びもやっていて、小さい子と一緒にやってやっていることが、とてもいいです。</p>
大村委員長	<p>私の住んでる名古屋市での小学校ですと、放課後は遊ぶ場にできません。全部もう帰りなさいと指導をしていますので、子どもたちが学校に帰ってきて遊び場として使えないということがありますが、みよし市は遊び場として機能していますね。ありがとうございます。少し安心いたしましたけど、ただ先ほどもお声がありましたが、実際子どもたちに遊ぶ時間があるのかということを考えていきたいと思います。いかが</p>

林スポーツ課長	<p>でしょうか。</p> <p>スポーツ課長の林です。三好丘地区に三好丘公園、桜公園というのがございまして、多目的広場は野球とかサッカーが有料で使う施設がございます。そこには、地区の人たちが、無料で使用できるように開放しております。先日も中学生がキャッチボール等をして遊べるような地域での活動や、子どもたちの遊び場として開放できるようにしております。以上です。</p>
大村委員長	<p>ありがとうございます。子どもは別に申し込まなくても大丈夫だということですね。</p>
大地委員	<p>はい、どうぞ。</p> <p>お願いします。今みよし市にはたくさん遊べる場所があるとか、スポーツチャレンジの取組とか良い面をたくさん聞かせていただいて、いいなと思って聞いていました。私はたまたまみよし教育プランの平成28年度版と今回合わせて見させていただいて、このスポーツのところもそうだったのですが、成果指標というのがありまして、このひとつ前の教育プランでは、平成26年の現状が書いてあり、平成32年の成果指標では、小中学生が男女とも、全国平均を上回るという目標が書いてありました。平成32年なので、令和2年ですけれども、今回も令和元年が書いてあって、令和7年に全国平均を上回るという目標が書いてあります。前の目標と今回の目標が、同じで、でも現状ではやはりそこに達していないということがあります。運用能力テストだけで、成果を図れるかということ、そうでもないかなと思っていて、この指標だけを見ていくと、そのみよし市のいい面がちょっと見られていなく、やはりまた上回れなかったということになってしまうかなということを感じています。なので、成果指標について、どこに視点を当てて成果指標を見ていくとか、この成果指標で見ることができるのでOKとか、見ることができないので少し方向を変えとか、その辺の検討も今後いるかなというふうに思いながら、前の教育プランと見比べながら、感じています。以上です。</p>
大村委員長	<p>大変ありがとうございます。全国平均を上回るというのは結構高いハードルかと思いますが、そこに達しないから駄目というわけではなくて、実際子どもの運動能力がどう変わってきてるのかということが、少し丁寧に見れる、そういった指標があるといいかもしれないですね。ありがとうございます。</p>
宮田副委員長	<p>はい。お願いいたします。</p> <p>いいじゃんスポーツチャレンジのことなのですが、これは昨年もそうだったのですが、体育祭とあわせて8の字跳びをやっています。今日も学校の方に、南中と三好中の結果だけが来ていますが、それを見て子どもたちが大変喜んでという姿があり、また当日に向けて、ちょうどこの競技を通して、心をひとつにするとか、全力を出し切るという運動面だけではなく、心を育てることに繋がりました。肢体不自由</p>

<p>大村委員長</p>	<p>の子が跳ぶ度に、みんな学級の子が喜んで、本当に拍手をして心温まる姿を見ることができて、運動と心の発達にも役立っております。以上です。</p> <p>はい、ありがとうございました。8の字跳びというのは、グルグルグルグル回って連続して跳ぶということですね。だから、一人でもつまずいてしまうと駄目だから、みんなで頑張ろうというそういう励まし合いがあるということです。良い実践の姿を少し紹介していただきました。</p> <p>はい。その他はいかがでしょうか。私からもう1点あるのですが、作戦の10番、個別支援を要する子どもに関わってですが、相談のところにもかかわるのですが、作戦4の個別支援のCのところ、令和3年度、2445件の相談のうち、およそ3分の1が不登校の相談だということが出ています。不登校について、これも全国的にまだまだ解決できてない課題として重要だと思っていますが、みよし市でもやはり大きな問題だということが見て取れます。2016年に文部科学省から通知が出まして、不登校の子どもたちへの支援について、学級復帰を目指さないということが話されました。今までは何とかして、学級に戻そうとか、あるいは家から連れ出そうという働きかけ、それを目標にしていたのですが、それを目指さなくていいんだと。学級に戻らなくても、子どもたちが楽しく、幸せに過ごしているかどうか、あるいはそこできちんと学んでいるかどうか、そういった目標のある意味で大転換が行われました。その中で、私が先月見学させていただいたのは、岡崎市の校内フリースクールです。岡崎の教育研究大会で、もう十数年になっているのですが、そこで生徒指導の分科会で先生の実践を勉強させていただいています。学校の中に適応指導教室が、その前からありました。それで、その適応指導教室をいかに子どもにとって居心地のいい場所にしていくか、そういう実践をずっとされていたのですが、一方で、あまり居心地が良すぎると学級に帰らないじゃないかと。だから、ちょっと厳しい方がよいのではないかと。あんまり、居心地がよい場所はかえって駄目なんだっていう意見もあり、ずっとこの間、岡崎市では、そういった議論をされていたのです。それが、やはり2016年のその通知もあり、岡崎市では、学級復帰を求めないと。そうではなく、子どもたちの居場所をきちんと作っていかうということで、適応指導教室から校内フリースクールという名称に変えて、F組というふうに言われているのですが、今年で3年目です。最初3校から始まり、今年たぶん13校ぐらいに増えていると思うのですが、子ども一人一人が多様性を認め合うといいますか、岡崎市の先生たちは、フリースクールだけを、子どもの多様性を認める場所にするのではなくて、学校全体をそういった場にしていきたいとおっしゃっていたのが非常に印象的でした。名古屋市でも、今年30校に校内フリースクールを設置すると言っていますし、春日井でもそういった取組があるとお聞き</p>
--------------	---

	<p>しています。ですので、ぜひみよし市でも子どもたちの居場所をできるだけいろんなところにつくるという、そうした取組の研究といいますか、検討していただけると、いいかなと思っています。この件について、何かありましたら少し教えていただきたいですが、いかがでしょうか。はい。お願いします。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>フリースクールで、一番良くなかったのは、どうしても教室に強制的に行く方に向けると、複合性PTSDという症状が出るのです。どういう症状が出るかっていうと、一見重たいアスペルガーだとか自閉の傾向みたいな障害的なものが出てしまうのです。その反省から、子どもとの対話で、基本的には自分も長いこと不登校の子たちと関わってきたのですが、何が一番大事かというところ、この子たちが自分の感情を言葉で表現できないのです。ここが私は、担当した子が多かったのです。私とその子の気持ちが言語化できて2人で相談しながら、その子が本来、社会の中で身に付けていく能力や自分の気持ちを言葉にするってところが、カウンセラーを相手として、身に付けて、それが現場に復帰できる力になっていくと思う。だから学校に居場所を作って、どうして行かないのだと責められると、結局複合性PTSDを作ってしまう、余計来れなくなってしまうので、そのフォローも何人も今までやってきましたので、やはりそのベースにそういう反省が入っているのだと思います。だから、校内フリースクールでやるというのは今、NHKさんがよく全国的に進んだところ、よく取り上げて特集組んでいるのですけども、やはり言語化、気持ちの言語化と、相手とどうコミュニケーションをとりながら、自分の思いを伝え、相手の思いを取り入れるという能力をつけていくと、自然にこの中に入る子どもが育っていくのです。やはりその辺も、文科省は研究して、そういう方針を出したのだと思うんですが、残念ながら、裏の状況をなかなか的確に理解している現場サイドというのが少ないのではないかなと。文科省は通達出しますが、現場がその裏を理解して、どのような施策をしてどのような対応をするかというところが、ほとんどされてないので、その辺が私のところに通ってくる学校に行けない子どもたちの様子見ていると、結局なかなか16年の通達がほとんど現場で理解されず、子どもたちが結構来てますので、やはりみよしの状況が分からないですけども、その辺の対応は、やはりこれからのベースとしてみなさんが理解しておくことが大切かなと思っています。</p>
<p>大村委員長 新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>はい。ありがとうございます。事務局の方としてはいかがでしょうか。はい。お願いいたします。</p> <p>市内の小中学校でも、基本的に不登校の問題で、やはり大きな問題であるというふうにとらえております。どの学校も一番大切にしているのは、やはりその子ですとか、保護者の思いに寄り添ってというところを、大切にしているところでありまして、その後は少し前向きになるということで、連絡</p>

<p>増岡教育部参事</p> <p>大村委員長</p>	<p>を取り合っているところであります。本市においては、適応指導教室といたしまして、学びの森というところにふれあい教室がありますが、ただ、他にも市内小中学校でも、学校に行けるが、教室には行けないという子もやはりいるものですから、そういう子たちに対して、例えば、校内フリー教室という名称ではつけてないですけども、別室で個別に教員が話をしたり、その子に合った学習または活動をしたりして、少しでも、その子が前を向いて、活動ができるような努力や、取組をしているところでもあります。人と人との関係、繋がりというものがやはり必須という欠かせない部分ありますので、少しでも人と人が関わるような機会をもっていけるといいなという思いで、取り進めているところでございます。</p> <p>参事兼課長が申し上げた通りなんですけど、実は、コロナ前と令和3年と、本市の長期欠席児童生徒の数を比べると、それまで横ばいだったり、減ってきていたんですが、95人に急激に増えています。ですので、コロナ禍で増えた不安を抱えるようになった子どもたちは、また別枠で解決策を考えなければいけないということで、本年度、校長会とタッグを組んで、重点的にやっていこうと情報共有しているところです。以上です。</p> <p>はい、ありがとうございました。先ほど、御意見もありましたが、2016年の文科省の通知っていうのは、今までの学校のあり方を変えていくような、そういった通知だったと思っています。不登校の子どもであるとか、その保護者が後ろめたい気持ちになってしまう。何かいけないことをしているような気持ちになってしまうのではなくて、そうした子どもたちも生き生きできる場所をどう作っていくのかという新しい課題が提示されたと思っています。ぜひ、みよし市でも、それについて研究していただければと、お願いを申し上げておきたいと思います。</p> <p>その他、皆さんからありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
<p>大村委員長</p> <p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p> <p>木戸教育部次長兼 教育行政課長</p>	<p>それでは、作戦11から20までの施策について御説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>作戦11でございます。重点施策「小中学校における学級指導体制の充実」についてでございます。現在、みよし市では、市独自の施策といたしまして、小中学校の全学年で35人学級を実施しております。令和3年度につきましては、みよし市小学校の第2学年、2年生で30人以下学級の実施をいたしました。また、小学校においては、中学年、高学年等で教科担任制、これは学校の中での工夫もありますが、3教科担任制を実施してきております。今後は30人以下学級の成果の検証とともに、さらに、小学校の教科担任制の方も進めていきたいというふうに考えております。以上です。</p> <p>続きまして、作成22「安心安全快適な学校環境づくり」についてです。みよし市内には小学校は8校、それから中学</p>

<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>校は4校ございますが、学校によっては築後30年から40年経過してきておる学校もありまして、施設や設備の老朽化などが目立ってきております。順番に改修をしているところでございます。振興計画にありますように、昨年度三吉小学校の大規模改修で、引き続き今年度も実施、完了する予定になっております。合わせて今年度は南中学校の大規模改修が始まっております。大体目安として3年ぐらいで一つの学校大規模改修を行っているところです。ですので、次は7年度から南部小学校の大規模改修というようなことで、順番に計画を立てまして実施しているところでございます。この大規模改修のほかに、天王小学校では児童数が増加しておりまして、これに伴いまして教室の数が足りなくなっていると状況があります。また合わせて、学校の先生もかなり増えてきておりますので、職員室のスペースが手狭だということで、昨年度工事の設計を行いまして、今年度に増築工事を予定しておるといったようなこともございます。以上です。</p>
<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>続きまして作戦13の重点施策といたしましては、「みよし市版コミュニティスクールの設置」についてでございます。昨年度、令和3年度につきましては、モデル校を三好中学校といたしまして、コミュニティスクールを設置いたしております。地域コーディネーターを配置いたしまして、地域学校協働本部設置の準備を進めて参りました。今年度につきましてはモデル校の三好中学校として、複数の小中学校が学校運営協議会の設置をしております。令和5年度につきましては、全小中学校がコミュニティスクールへの移行を完了するとともに、地域学校協働本部の設置の進めていきたいと考えております。以上です。</p>
	<p>はい。失礼します。生涯学習推進課長の二子石と申します。作戦14につきまして、説明をさせていただきます。図書館学習交流プラザにつきまして、生涯学習、いろんなことを学べるようにということで、平成28年に開館をいたしまして、市民一人一人の方が生涯を通じまして、生きがいを持って学ぶことのできる場や機会を充実させるために、幅広い分野にわたる生涯学習講座を開催しております。また、昼、平日、昼間以外にも、夜間や土日の講座を企画し、生涯学習の機会を増やして参りました。令和3年度は、令和4年度からの十年間の計画、第三次生涯学習推進基本計画、お手元の水色の概要版ということで、資料を配付させていただいております。今後も受講者からの意見を取り入れまして、需要を把握し、講座の種類を見直しや充実を図って、受講者の増加を図って参る所存でございます。</p> <p>続きまして、作戦15「生涯学習の推進」でございます。生涯学習の推進につきましては、生涯学習講座で出会った市民の方々が、気の合う仲間としてともに自主的に活動いたし、生涯学習団体を作っておられます。それらの生涯学習の成果を発表する機会といたしまして、生涯学習発表会を企画して</p>

<p>林スポーツ課長</p>	<p>おります。令和元年、2年につきましては、新型コロナウイルス感染症により、生涯学習発表会は中止いたしました。令和3年度は、サンライブやサンアートで開催いたしました。今後も生涯学習活動団体への助成を継続しつつ、生涯学習発表会も引き続き実施して参る予定でございます。令和4年度につきましては、来年2月の下旬ぐらいから、開催をすることで、準備をして参る予定でございます。以上です。</p>
<p>村山歴史民俗資料館長</p>	<p>スポーツ課林です。作戦16、「市民がいろいろなスポーツに親しめるように」でございます。現状と課題につきましては、全国的に子どもの体力の低下傾向とあとスポーツを行う子、行わない子の二極化の傾向が見られます。また本市のアンケート調査結果では、運動習慣のほとんどない成人が50%以上おります。このことから、地域全体でスポーツに親しむ環境を整備し、市民が生涯にわたり健康な暮らしを送るため、生涯スポーツの推進の必要性が高まっております。重点施策は、総合型地域スポーツクラブの育成でございます。現在市内に三つの総合型地域スポーツクラブが活動しておりまして、引き続き活動の支援を行うことで、市民がスポーツに親しめる機会を提供して参ります。本年度は小中学校部活動の休日の地域移行について、総合型地域スポーツクラブの関わり方の協議に参加していく予定でございます。以上です。</p>
<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>歴史民俗資料館長の村山です。作戦17「みよし市の歴史や文化を広く市民に発信します」、重点施策は、歴史民俗資料館の展示の充実です。資料館では、平成28年度に展示室をリニューアルして、企画展示と常設展示を完全に分け、猿投古窯などの本市の歴史、文化など、常設展示を充実させました。また、展示会のほかにも、体験講座や出張事業などの各種イベントも開催して参りました。本年度は年4回の展示会のほかにも、小学校での回遊陶器作りの体験や、昨年度に引き続き、資料館のあり方検討会を開催し、将来構想など、提言としてまとめる予定です。現在の状況としましては、春季企画展の開催、回遊陶器作りの体験申し込みが6校ありました。今後の計画は、資料館あり方検討会からの提言を受けて、今後の方針を検討し展示会等に反映させていきたいと考えております。以上です。</p>
	<p>作戦18について説明をさせていただきます。平成28年に、現在の場所に図書館を移設いたしまして、本が好きな市民をふやすように、毎月テーマを決めて特集展示を行っております。また、令和3年度に電子書籍の導入を開始し、図書館に来なくても、Web上で書籍等が借りられるようになりました。また、3年度末に、第4次子ども読書活動推進計画を策定いたしております。4年度の予定につきましては、児童に本への興味を持ってもらうために、1日司書体験や、バックヤードツアーなど、通常では体験できない企画を用意しております。また、認知症や終活など、必ず考えなければならないテーマについての特集展示も考えております。以上説明と</p>

<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>させていただきます。</p> <p>作戦１９の重点施策、ふるさと学習の推進について、お願いいたします。令和３年度に副読本みよしを改定いたしました。そこでは、二次元コードを掲載するなど、学習用タブレットを活用して、学習できるような工夫をいたしました。サンライズをはじめ、様々な場所にこの副読本みよしを置きまして、市民の方々に手に取っていただく機会を増やして参ります。小学校における総合的な学習の時間で、ふるさとの未来について考えることですか、みよし市に赴任いたしました教員の初任者の教員研修にも利用するなど、さらなる活用方法についても検討をして参ります。</p> <p>続きまして作戦２０の重点施策であります。「学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集について」でございます。令和３年度につきましても、長期休業中に行われておりますみよし市未来塾を地域の力で学習指導を行わせていただいております。夏休みですとか冬休みに実施をしてきましたが、夏休み冬休みを合わせまして、延べ３３９人が参加をいたしました。また、地域と学校との連携した活動も増えてきております。今後は、みよし市未来塾の継続とともに部活動の地域への移行やコミュニティスクール、地域学校協働本部の設置と、様々な工夫を講じまして、学校と地域が一体となって、支援をしていきたいと思っております。以上です。</p>
<p>大村委員長 鈴木誠直委員</p>	<p>それでは、今の作戦１１から２０までについて、御意見、御質問いただきたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>２点お願いします。まず作戦１２についてですけれども、小中学校の体育館にエアコンの設置等を進めていただいて本当に大変感謝しております。ありがとうございます。熱中症対策の一環でもあると思うのですが、昨日とか今日とか大変暑くて、暑い日だからこそプールと思って入ろうとするのですが、プールでの熱中症というのも大変心配で、水温が３０度以上になりまして、プールサイドでは、３７度とか３８度とかになります。国が出しているガイドラインとかスポーツ庁の熱中症対策も見ると、日陰を作るっていうふうに書いてあるのですが、中部小学校では本当に日陰ができないので、簡易テントを作ってやっています。今後例えば改修工事の予定があるときは、そういったことも含めて検討していただければいいのかなと思いました。ただ、今民間委託のことも進めているので、そのあたりの兼ね合いもあり、プールを今後どうしていくかってこともあると思いますので、その辺りのことも含めて考えていただけると良いのかなということをおもいました。</p> <p>続いて、もう１点、作戦１８ですけれども、電子書籍サービスということで、大変時代のニーズに合ったいい取組だなと思っています。本当にありがたいなと思います。ただ、職員室等で、こういうのを知っているかと、みよし市の市民の先生に聞いても、知らないと言っておりました。このＰＲを</p>

	<p>行いと書いてあります、このPRの仕方というのが大事になってくるのかなと思います。本当にいい取組をされているので、ぜひ知っていただきたいなと思います。以上です。</p> <p>はい。ありがとうございました。それでは今の件について、事務局から何か御意見、御質問ご説明とかありますでしょうか。</p>
大村委員長	
二子石生涯学習課長	<p>生涯学習推進課二子石です。PRについて、今のお話を聞きまして、まだまだ足りないなと感じましたので、これから学校の方とか、一般の方についても、いろんな方法で周知の方を考えていきたいと思います。御意見ありがとうございました。</p>
木戸教育部次長兼 教育行政課長	<p>前段のプールの件ですね。大規模改修でプールの改修も行っておりますので、学校現場の声を聞きながら、そういった部分を取り入れていけたらと考えております。以上です。</p>
大村委員長	<p>はい。ありがとうございました。今の点については、プール全体に日除けとか、その屋根とかを作るという予定はないのでしょうか。</p>
木戸教育部次長兼 教育行政課長	<p>今現状でいきますと、全面的に日よけがあるプールはございません。一部日がよけられる場所、テントのようなものがあって、そういった場所が既設でついているところもありますし、多分それでは足りないので、学校の方で、学校にある組み立てのテントを置かれているところが多いのではないかなと思いますが、その学校のテントもなかなか足りてないという状況もあるかと思います。そういったことであれば、ぜひ前向きに検討していければと思います。</p>
大村委員長	<p>プール全体に日よけをかければ、水温がそんな上がらないので、熱中症の心配も少なくなると聞いているのですが、あまりそういった学校というのは、近隣でもないでしょうか。</p>
木戸教育部次長兼 教育行政課長	<p>市内にはプールサイドのところに日よけがあるという程度で、プールの水面を覆うようなものではないです。情報いただきましたので、そういったことも一つ検討させていただければと思います。</p>
大村委員長	<p>屋根という建築物という感じではなくて、黒いネットというか、シート上のものを上にかけるものです。なので、基本的には日よけにもなり、強い水温上昇も低下できるという、そういうもののような感じです。また、ご検討いただければと思います。その他、いかがでしょうか。</p>
	<p>すいません。1件、スポーツのところでお話いただいたところでもあるのですが、16番ですが、部活の地域移行については、これはスポーツだけの問題ではなくて、文化系の音楽であるとか、そういったものも関わってくると思うのですが、全体として地域移行について、どこかで考えるとか、計画するとかいうことはございますでしょうか。はい。お願いいたします。</p>
教育長	<p>昨年、一昨年ぐらいから、部活動のあり方検討会というのを市としても立ち上げていますが、学校関係者等が多いので、</p>

大村委員長
宮田副委員長

どういう団体さんが協力いただけるかという中で、スポーツ課等も取り込んでいこうということですが、大変難しい問題です。人がいない。団体がいない。それから、子どもたちの部活の活動の保障ですよね。次の部活がやれない学校もある。学校部活の再編成、それから予算の問題、土日の指導者が変わっていいのかという問題。中には先生方にアンケート取ると半数ぐらいは、兼業兼職でやってもいいという部活をやりたいという先生もいる。その中でどういうふうにして、まず子どもありきの活動を保障していくかっていうのは大変悩ましい問題ですが、上から降りてきていますので、市としても受け皿をまず探さなければいけないということで、三好中の方の地域協働本部の先生方とも相談しながら、或いはスポーツ課の総合型地域クラブの方、スポーツ協会、いろんな連盟の方のお知恵をいただきながら、まず人材確保・場所確保をちょっと進めておかなければいけない。三河の教育長会で集まると、やはりどの市町も困難だと言われる。だから何とか用意をしようという考えと、もうひとつは県などに実施するなら、予算的な保障だとか、人材の保障をしていただかないと、とても無理だというようなことも働きかけようというのが教育長会の現状です。たぶん、みよし市でも困難な状況が予想されますので、他市町も本当にどうしようというのが正直な現状だと思います。何とか話し合いだけを進めていこうと思っています。以上です。

はい、ありがとうございます。はい。お願いいたします。

近隣の市町のことで、情報が入ってきますが、ある市が4校が先行して、地域と連携してやっていこうと言うのですが、結局その4校の話を聞いても、やり方がばらばらで参考にならないということです。先日の豊田みよし大会を見ても、クラブチームのあるところが、ことごとく勝っていて、南中でいうと去年まで9人しかいなかった野球部が、今回第1シードの竜神中に勝ちました。それは何が力かという地域で育てていただき、一年生が2人入って学校のチームとして出ています。そういうふうに大きく変わってきている状況があります。ですので、学校でも、いつになったら地域移行できるのだろうということが話題になるのですが、本当に弓道なんか見ても、派が違うから駄目だよとか、いろんな難しい問題があって、どうやっていけばいいのかなというのは、本当現場も悩んでいます。二つ目は、13番の地域とともにある学校ということで、地域コーディネーターの方がお見えになります。その方が言うには、本当、みよし市は農業の街ということを言っているのに、全然その後継者が育っていない、人材不足だということで、ある方は地域の体験に来て欲しいということを言われます。もう一つ、私自身、南中の正門の前に愛知用水があることを先日まで知らなくて、これ愛知用水だよ、これがあることによって、みよし市が栄えたんだということで、本当に子どもたちに集会でもいいから宣伝

大村委員長	<p>して欲しいということを言われます。先日も、子どもたちがその方の紹介で、東山の方で梅取りをしました。それで、地域の方とゲートボールをやるかということで、ゲートボールをやって楽しんで帰ってきて、もしよかったら秋に栗を取りに来るか。その栗を取ったら今度地域の方を敬老会の方をお招きしてやっていこうかなというのを言っております。もう1点です。今日、この図書館のことが書いてあったのですが、図書館の補助員の方に読書量とか読む量を増やすために、どんな工夫をしてますかと聞いたら、とにかく表紙が見えるようにして、そこに漫画とか、ポップの文字で書いて、手に取ってもらえるようにすると言われていました。あと、まず最初に読書が苦手な子には部活のテクニックの本とか、写真の多い本を紹介して進めているってことで、そのような工夫をしてくださっています。以上です。</p> <p>はい、ありがとうございます。先ほど、私の方から部活動の地域移行の話をしていただきましたが、新城市が少し面白い取組をされていまして、新城市青年会議では高校生から20代の方たちが集まって、年間かけて市への施策を提案書を作って、3月にそれを発表するということをやっているのですが、今年の3月は、中学生の部活を地域の団体とかサークルと連携してやりましょうという提案でした。市の方で、その中学生を受け入れてもいい団体を募って、それはスポーツだけではなくて、吹奏楽とか、合唱とかってのもあるのですけれども、それに対して、中学生の方が手を挙げて、やりたいところに行って活動する。そうすると、中学生は放課後の活動が非常に充実するし、地域の団体としても活性化して、若い人たちと一緒に取り組めるということで、今年度からの取組なので、どうなっていくかというのは、ちょっと見守っているのですけれども、そうした地域のそれぞれの団体、特にスポーツ団体もそうですけれども、どういう連携ができるのかということ、学校関係者だけで議論するのでは、たぶん突破口を開かれないので、その市民と一緒に考えるという場を作っていただけるといいのではないかなと思います。そうでないとお金がいくらあっても足りないと思います。これも要望として申し上げておきたいと思います。</p> <p>その他、よろしいでしょうか。それでは、重点施策についての御意見はいただいたということで、これを生かしていただきたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>ここで休憩を取ります。15:35から後半を開始します。</p> <p>なお、休憩後は、「みんなで育てるみよしっ子」の推進に向けてのグループ協議を行います。それでは休憩に入ります。</p>
大村委員長	<p>時間になりましたので、再開いたしたいと思います。それでは「みんなで育てるみよしっ子～共育・協育～」を推進していくための協議をします。はじめに、事務局から説明していただきます。説明の後には、委員のみなさま、それぞれの立場で、こういった取組として推進していくとよいのかを中</p>

	<p>心にグループ協議にて、御意見を伺いたいと思います。</p> <p>それでは、事務局、お願いします。</p>
事務局・大成	<p>お願いいたします。お手元の資料3がパワーポイントの資料になりますので、前の画面か資料3をご覧になりながら、見ていただけたらと思います。令和2年度みよし市教育振興基本計画の中間見直しを行い、みよし市教育振興基本計画会計予算を策定いたしました。中間見直しでは、目指す人間像を・「生涯にわたって自らを磨き続け、仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、より良い次代を創り出す人」と設定し、みよしの中だけでなく、広い世界で活躍できるような人材の育成を目指しています。I「次代を担う子どもをみんなで大切に育てる」の中では、知・徳・体のバランスのとれた子どもを、一人一人の個性を大切にしながら、家庭・地域・学校が手を取りあい育てていけるように、委員の皆様協議をいただきました。その結果、みよし市教育プランのP24・25の通り、「みんなで育てるみよしっ子」としてまとめ、地域・家庭・学校が、子どもたちに働きかけができればいいなという取組を例として示す形といたしました。キーワードは、「共育・協育」です。意味は、御覧ください。三本の柱の実現や学ぶ楽しさ、人と人をつなぐなど、みんなで育てるという目標に迫るには、「みよし市版コミュニティスクール」の活用が有効と考え、三好中をモデル校として取組をスタートさせ、他小中学校へ広めているところです。その取組の紹介をいたします。みよし市では、作戦13・20に関わって、みよし版コミュニティスクールを推進しています。三好中学校をモデル校として、これまで、一歩ずつ進めてまいりました。例えば、東海学園大学・企画政策課との連携し、SDGSの学習や啓発に取り組んでいます。また、清掃・花の植替え・リサイクル活動にも、取り組んでいます。アルコールの除菌スプレー台の作成や、QRコード付きの市民憲章啓発ポスターの作成などの取組を通じて、子どもたちが力を伸ばしています。昨年度も、御覧のように、地域コーディネーターの中心に、子どもたちの学びを支えていただいております。どの活動も、子どもたちの思いや学びを大切にしていることが源です。そういった子どもたちを中心にした活動が、子どもたちの力を育んでいます。北中学校では、地域コーディネーターを中心に、子どもたちと対話を持ちました。対話から、子どもたちも地域の防災訓練に参加したいとの思いから、計画を立てたり、子どもたちが防災安全課や協働推進課と一緒に研修会に参加したりし、当日への準備を進めています。みよし市内でのコミュニティスクールの設置について、本年度は、三好中学校・北中学校・南中学校の3つの中学校と、三好丘小学校の合わせて4校で設置していきます。学校ごとに、地域の特色を生かした取組を行うことで、子どもたちだけではなく、地域も、家庭も、教員も共に育つことが期待されます。そのため、このコミュニティスクールの取組が、みんなで育てる</p>

<p>大村委員長</p>	<p>みよしっ子を推進するものになると考えています。資料3の赤枠の部分に示したように、コミュニティスクールや地域学校協働本部などが、「みんなで育てるみよしっ子～共育・協育～」を推進していくものになるのではないかと考えています。これが、イメージ図です。本日は、「みんなで育てるみよしっ子～共育・協育～」を推進していくために、「みよし市版コミュニティスクール」の推進の方向性はよいか、別の視点や方法はないか等、推進するためにどうしていくとよいかを、御協議いただき、御意見をいただければと思っております。短い時間になりますが、A・Bそれぞれのグループで御協議ください。各グループの協議内容につきましては、指導主事がホワイトボードにまとめさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。短い時間になりますが、A・Bそれぞれのグループで御協議ください。各グループの協議内容につきましては、指導主事がホワイトボードにまとめさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>時間は30分で、2つのグループに分かれて、ご協議をいただきたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p> <p>宮田副委員長</p> <p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p><Aグループ協議></p> <p>こちらのグループの司会進行をさせていただきますみよし市教育委員会の新美です。どうぞよろしくお願いいたします。今、担当の方から御説明がありましたように、小中学校に限らず、みよしの子どもということで、園と小中高校、みよしの子どもたちに対して、学校だけでなく、地域ですとか、どういうアプローチの仕方が子どもたちの成長につながるのかということ、ご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。実際、南中学校では、どうでしょうか。</p> <p>今、ちょうどコミュニティスクールを立ち上げたところですけど、地域の方は、やはり子どもたちを行事とかに参加させて欲しいということで、どういうことができますかということを考えてみえます。私たちも、部活動だけではないのですが、地域にどのように返していこうとか、地域の求めるものをどう取り入れていくといいかなという中間的な役割としていけるといいのかなと思っています。</p> <p>ありがとうございます。ちょうど三好中学校が令和3年度に取り組んでもらっているが、それに近い感じですね。まず学校と協議させてもらって、地域コーディネーターを選任させてもらって、その方々が中心となって、学校と地域をつなぐという立場で取り組んでいただいています。例えば、三好中学校でも特別なことというより、学校の除草作業などは、今までは子どもや教員でやっていますが、コーディネーターの方が地域の方々に声をかけて、みんなで三好中学校のグラウンドをきれいにしようかということで保護者の方が集まっていたいて、みんなでやっていただいたとか。または、例えば、俳句が得意な方に来ていただいて、子どもたちに俳句を</p>

	<p>教えていただいたりとか、教員だけではできなかったことを助けていただいたりしています。三好中学校以外でも特別すごいことというよりも、もっともっと地域の方々も一緒になりながら、子どもたちを支えていこうっていうのが一番大きなところです。</p>
熊谷委員	<p>地域コーディネーターというのはどういった方を選任されているんですか。</p>
新美教育部参事兼 学校教育課長	<p>教員ではないですが、学校によっては様々です。例えば、地域の方で協力や理解いただいている方だとか、南中学校さんのメンバーはどんな方ですか。</p>
宮田副委員長	<p>71歳の方が3人で、教育委員をやられた学校の先生とか、本当に学校のためだとか、子どものためだということでボランティアです。そういう経験もある中で、学校や子どもたちが要望していることを、もうすごく献身的にやっています。</p>
新美教育部参事兼 学校教育課長	<p>必ずこういう立場でなければいけないという取り決めは全くないのですけれど、本当に学校への御理解をいただける方に、お声かけさせていただいて、選出させていただいています。</p>
近藤委員	<p>24と25ページ目の真ん中に年寄りが入っていませんけれども、小さい赤ちゃんが載っています。ここでは多分、小中学生と幼稚園も入るのかな。真ん中に子どもがいます。支えるとして、例えば、砂の棒倒しのように、どっか砂の低いところの棒が倒れてしまう。このプランでいくと、地域と学校と家庭がありますよね。今日のメインは、地域の方の支えが中心になっているとか、全部で話してもいいのか。</p>
新美教育部参事兼 学校教育課長	<p>基本的に将来的には全部で支えていきたいなというところなんです。ただ今日の委員の方が、すべてを網羅しているかというところ、そういうことではないです。園に関係する方ですとか、お子さんに関わる方ですとか、それぞれの立場があるわけですから、そういう立場で、今日はどんなことができるかというところの御意見いただければいいなと思っております。</p>
近藤委員	<p>だから、地域でも、家庭の方でも、子どもたちを、みんなで育てるっていう意味で理解しました。基本的に一番生活時間が長いのは多分学校だと思います。寝る時間と学校に行く時間とを合わせると、親とかとコミュニケーションする時間がない。やはり、根本的には学校で過ごす時間が一番長いので、基本的には先生と子ども、子どもたち同士のかかわり合いで成長の基本ではないかと。この子どもたちが一番面白いのは、夏休みが始まるのですが、夏休みが早く来ないかなという子どもと、みんなと会えないから夏休みはいらないという子と。やはり学校っていう場所が、子どもたちが希望をもってきて、満足して帰るような場所を想定しています。</p> <p>そのために、一番メインの学校教育があり、それから帰った後に、地域それから家庭の保護者の方、この辺の連携が大</p>

切で、この辺があんまり意識されずにそれぞれほわっとした形なんですけども、こういうプランで、きちんと明確化、文書化され、目標が20の作戦PlusOneでこう出てきたのですけれども、その時に注目しているのは、やはりPlusOneのところのIT機器を使った教育で、メインは何かというと一番は自分で考えてタブレットに全員、1人ずつ書かないと、授業が進まないシステムが入っています。全員が自分の考えをもって、発表して、それに対してコミュニケーションできるシステム。それを一番メインに使うと、一人一人が自分の考えをもって友達とコミュニケーションできると、かなりの子どもたちは、夏休みが始まるとつまらないなというふうになるのではないかなと。自分が現職の時に、研修会でよく北海道の先生方と一緒にやったことから、北海道は複式が多いです。7割8割は複式なので、愛知県からいくと45人の教室のときも、北海道はほとんど数人だったから、個別の教育ができるかっていうと、実はそれが北海道の先生はそうじゃないと。どういことが起こっていたかという、これどう思いますかと言うと特定の子の方を大体の子が見るんですよ。先生が何とかさんと言うと、これはこうですという。みんなはうんうんと頷く。だから、3・4人の小さな教室で一人一人が、自分の考えをもつかっていうと、それができないから北海道の先生方はすごく苦勞してみえました。実は、それを解消するために子どもたちが一人一人の考えをもつようなシステムをどうするかというの、日本のコンピューターの実践の始まりなのです。それが30年たってほぼ全員がタブレットを持って自分の考えを発表できることが可能になったのですが、なかなかベースの部分がなかなか保護者にも子どもの先生方にも理解されていない。

カウンセラーでいくと、そこができない子たちが一番問題起こして不登校になっているので、そこをやはり、もう少しやっていたらと。だから、私は、メインは3分の1を占める学校の時間のやはり充実で、あとは帰った地域っていうのは、やはりシステム化してうまくできるように。

システム化できるところと学校の子どもが過ごす生活時間のところは、やはり全員で考えていかないと私はいけないと思っています。ここの保護者のところの何が問題かっていうところを見ましたが、自分の考えをもてるというのは、実は一言も入っていないけども、やはり、自分の考えをもって人に伝えるっていう能力ってのは一番コミュニケーションの大変なベースの部分なので、それをサポートするために、地域ではどういことができるか、家庭ではどうかという発想で、ここの問題を、共育・協育のところをとらえていかないと。やはり1個ずつの施策のところをいくらやっても、メインをもうちょっと考えていかないと、この教育委員会がすごい労力をかけてやっているところなので、そこをやはり、みよし市なりのビジョンが出るといいのかなという考え。

新美教育部参事兼 学校教育課長	<p>自分の思いをどう表現できるか、どう支援していくかということですね。ちょうど、この園の関係の方や父母の会の方も見えるので、親御さんとの連携だとか、子育てについてだとか、ありますか。</p>
辻委員	<p>やはり保育園だから、コミュニケーション能力とか。自分の思いを伝えるとか、嫌な思いをしてしまった気持ちとか、その子の気持ちの部分。1歳、2歳で自分で表現できるとか、受け入れてもらえなかったとしても、どんな思いだったんだろうという積み重ねで。その場で、どんな思いだったんだろうという部分を大切にしている。</p>
近藤委員	<p>少し補足ですけども、自分の考えは基本的には、例えばゲームばかりやって困っているという子たちの面談だと、特徴的なことが出てきます。何がしたいのと言うと、「ない」というですよ。自分が次何をしたいか、学校で何をしたい、部活で何をしたい、将来何になりたいのか、この子たちは基本的には、何もないです。</p> <p>だから結局、そのストレスもあって、ゲームをやっている間はストレスも何もないですので、ゲームをやっている。だから、小さいうちから自分が、今何をしたいのか、したいっていうと絶対にトラブルになるので、そこでこう調整して折り合いをつけて、園はどのレベル、小学校の低学年中学年、中学校高等学校、その辺が階層的にきつと上がっていくと思うんですけども、そこがストーンと落ちている。だから、その地域でやったときに、その子たちの思いを。監督の前という形では、もう一切自分の意志っていうのもっていないものですから、だから自分の意思がないわけです。監督が言う通りです。イチローさんが、いろんな高校に行って指導するとき、ワーンと声を出しているけど、「本当に練習になるの」「考えてやっているの」と言います。「集中がとぎれちゃうよ。そんなことやったって」と、子どもたちが声を出しているのをやめたら、そのチームが強くなったというのが、テレビやっていたんですけども、根本的にそういう問いかけですね。だから、地域に集めてやるぞという、ただ行事をやって何人参加したではなくて、その場で子どもたちの意識がどこで噛み合って、何か参加して、どうなって子どもたちが帰って、こうした方がよかった、これはよかったねというそういうレベルまで考えた地域的サポートとか、家庭教育でいくと、もう忙しいから何しなさいという命令、一切子どもが何したいかも聞かずに、親の命令だけやっていけば過ぎてしまうという家庭教育、やはりその辺が何か自分がここの20年近くすぐ関わってきた子どもたちというか、大学生も含めて非常に、その辺が非常に弱いような気がします。だから、こういうみんなで育てる、共育・協育のときに、そのベースがもう少し共通認識して、そのために地域、学校、それから保護者の家庭教育をどうするかという視点がもう少し下のベースを認識していないと、具体的な施策と言っても何か弱いような</p>

<p>熊谷委員</p> <p>新美教育部参事兼 学校教育課長 熊谷委員</p>	<p>感じをもっています。以上です。</p> <p>先生がこれをしましょうとか、あれやりましょうということを子どもたちがやるのではなくて、どうしたいかって言うことで、やっぱり表現していくことが大切なのかなと。</p> <p>コミュニケーションだとか、お母さんとしては、意識していることがありますか。</p> <p>小学校に上がって、やはり幼稚園のときとはまた違って、地域の方と接することが多くなってきている。また、うちは児童クラブには入っていないくて、帰宅してそのあと児童館で遊ぶという流れなんですけども、児童館ってところがすごくありがたくて、主人の地区では児童館はなかったみたいで、すごくいいねってと言って、うちの中に話をしているのですけれども、やはり児童館にも先生が見えて、また違う親、大人との関わりができて、またそこで自分の思いを伝えなきゃいけないというところもあって、家庭ではやはり核家族が多いので、本当、自分の親とその関わりの中で、もやもやするところもあると思います。特に、うちは娘が小学校2年生ですけど、自分の思いを、私も頭ごなしにしまうところがあって、そういったときに、児童館の方で、他の先生と関わっていく中でちょっと緩和される部分もあったりとか思うので、もう少し児童館というところもピックアップされてもいいのかなと。すごくいいところだなというふうに私は感じる。あとは、公園、やはり近所にあるのはすごくありがたくて、そこに遊びにも行きますが、あんまり親子で触れ合わないというか、コロナ禍で、貸し切りだねということが多くて、そういったところでも何か地域の方々と接する機会があってもいいのかなあと。</p>
<p>増岡委員</p>	<p>保育園に預けて、本当に先生方も子どもを一生懸命見て大変だなと。中でも、一日ひとつ何かを伝えてくれようとしてくれていることに、すごく感謝しています。</p> <p>先生たちも見きれないのは分かっている、家に連れて帰って続きをお家の中で何かできるっていうように、考えています。長い時間、保育園に預けてさせてもらって、家の中でも同じように、同じ方向性でということは気を付けています。先ほどの主体性のことで、同じ学年の子でも何度怒られても平気な子と、うちは一旦怒られたから先生に怒られたくないというように、性格はこんなに違うんだなあと。どうしてか分からないですけど、先生の前ではあまりこうしたいということはあるまい言わないようにしているのかな。そこは難しいなあとと思いながらも、家ではわがまま言うので、そこは受けとめればいいのかなあと思ったりして。その会話の中で、なんと言わなかったの、こういうふうに言えばよかったじゃないの。本人に吐き出せることとか、本当におやつひとつにしても、どっちにするかを選択をさせるとか、ちょっと意識しています。正直、社会人とか、こうしたいって結構少ないんですよね。ただ、言われたからやっているというの</p>

<p>杉浦委員</p>	<p>ではなく、選択するっていうことが大事だろうと、小さなことをすごく感じています。常に選択させるっていうことは、次に繋がるのかなと。その選択を親が止めるのではなくて、その中に選択肢がないならどうするのかと。ちょっとずれかもしれませんが、私も核家族で、私自身の出身がみよし市ではないので、地域活動となってくると、よくは知らないんですよね。私は物を売る会社に勤めているのですが、一緒にいる人を巻き込むという、一つのテクニックでありまして、なので子どもも親も巻き込んでもらえた方がより入りやすいのかなというように、先ほど聞いていて思いました。私も知らないから教えてもらったら、一緒に巻き込まれて、子どもと一緒に楽しく巻き込まれるのかなというのは感じました。やってみるっていうひとつのキーワードとかにもなるのかな。</p> <p>私は孫がいるのですが、保育園の活動とかを聞くと、やはりしたいことを選ばせるとか、何したいっていうことで選ばせるっていうところは、保育園でもそういう意識がたくさんあるのではないのかなと感じています。学校で今やっている図画工作の内容って、私たちが子どもの頃は綺麗な絵を書くとか、きちんとした写生をする、彫刻を作る、ものを作るとか、何か綺麗とかきちっとしたっていうところを目指していたんですけど、今はそうではなくて、造形遊びとかいろいろあってやりたいことをやりたい材料を使ってやる。それが綺麗であるとか、きちっとして出来上がっているっていうところが大事じゃなくて、そこを楽しむというところを、図画工作の時間は、今大事にされていると思うんですね。だけど、それをするというところが学校教育の中でも、それができる人とできない人とか、意識が高い人と、そこはなかなか理解できなくて図画工作で、どうやって絵を書かせようかなっていう先生たちとか、そのあとどう評価するかとか、いろいろ難しいところがあると思いますが、指導要領の中でも、やはりそういう自由に発想したりとか、楽しんだりとか、大事にされていると思います。だけど、その大切にされていることが、教師の力もそこまで達していなかったりとか、うまくそれを使っていなかったりとか、ということがたくさんあると思います。なので、そういうところをもう少しみんなで理解し合って、何を大切にするかというところまでやっていくと先ほどから出ている、自分で考えることを大事にするとか、過程を大事にするとかっていうところが、もう少し見えるとか、できるのではないかと思います。分かって違うのは大事だなと思っているけど、どうやったらそうなるのか、これはなかなか大人も分からないところがあると思うので、これを大切するところをみんなでもう少し理解し合ってとか、分かり合って、親も分かり合って子どもが図工で描いてきた絵がぐちゃぐちゃだったら、ちょっとお家で心配しているけど、そうじゃなくて、それが楽しんだものであれば、すごい評価</p>
-------------	---

<p>平尾委員</p>	<p>ができるとか、そこを大人も子どもも先生もみんなが理解できると、いいのではないかと感じます。</p> <p>全体的なことになってしまうかもしれないですけど、推進計画を立てていく中で、これは批判でもなく、私の反省でもあります、こういう教育行政に関わったプランをやっていくと、言い方が悪いですけど、大きな目標があってそこにいろんな方策は考え、だんだん進んでいくと、枝葉を一生懸命やることに尽力してしまいます。本来の目標、自分の担当するこの部分がどれだけできて、そのためにどうしようかってすごく枝葉の部分に力を入れてしまったという私自身の反省もあって、やはり、そのあたりで先ほど先生がおっしゃったのは本当の目標がどこにあるか、しっかりもつべきだなと思っています。その中で、今回の計画でいうと、やはり将来にわたって自らを磨き続ける人間を育てたい。今の話題どうしても学齢期の子どもたちのことだと思いますが、その先も含めて、生涯にわたって学べるようになってきた。我々、生徒たちの前で話していると、今の話じゃないですけど、自分の考え方がもてないとか、もともとそれがどこにあるのかも考えようとしないとかということがありますが、そういった面では、コミュニティスクールで、いろんな分野で専門的に頑張ってる人たちと交流をもてるって話が非常にいいんですが、そこにやはり気をつけたいのは、この人を教える人、僕たち学ぶ人っていう棲み分けをしてしまうと、いつなってもこの子たちは考えられないと思います。やはり一緒になって考えていくということが絶対必要だと。これは学校でもそうです。教員を教える人、生徒は教わる人だから教員の言うことを聞けという教育をしてきたし、我々も受けてきて。ですから、少しそういうあたりも、考えていく必要がある。</p>
<p>杉浦委員</p>	<p>平尾先生が、そもそも教育とかという根底から話してください。さった話が、すごく深まっていると思いますが、要するに今先生がおっしゃった通り、自分のこうありたい姿に向かって、歩み続ける人を育てたいんですよね。人間っていうのは、三つの居場所がある人は幸せなんだそうです。家庭、仕事プラス1なんです。子どもでいっても、家庭、学校プラス1なんです。三つも居場所がある人はやはり認めてもらう場が、学校と家庭、仕事だけではないです。家庭と仕事だけではないという人生がいいという。なるほどと、すごく思いましたが、このみよし市の考え方が学校の家庭と地域でしょ。今回、家庭を焦点化したっていうのも、すごくいい。私自身、スリーポイントはそういう意味があることを言いたくて。最後ですけど、先生がおっしゃって、私もすごい同感でして、結局、子どもがこのコミュニティスクールもそれが地域連携校もそうなんですけど、学校は与えてもらう立場じゃ駄目だと思う。ただ学校のニーズにこたえて、地域が動いてくれるじゃ駄目で、子どもが地域に何をなしえるかっていう経験を絶対させなきゃいけない。だから、北中学校さんの実践でやった防災</p>

	<p>で、スタッフになって、地域の方と手を携えて地域の防災考える。そういう形の取組は価値がある。やってもらってありがとうは、やはり受け身になっちゃうので、WINWINで双方向の関係ができるような、コミュニティスクールの考えとか、地域の考え方がいると思います。それから中学校区で考えるっていうのもいるかと思います。中学校だけじゃなくて、中学校区の小学校がついてきて、中学校区で考えるって発想も、いいかなと思いました。</p>
鈴木誠直委員	<p><Bグループ協議></p> <p>今事務局から提案があったように、「みんなで育てるみよしっ子～共育・協育を通して～」ということで、それを推進していくにはということですが、コミュニティスクールの話もありましたし、そういったことも踏まえてお話をしていただけだと思います。率直に、このテーマで思うこと、感じることはございますでしょうか。</p> <p>コミュニティスクールの話が出てきましたが、富樫さんはコーディネーターを務めていただいていると思うんですけども、そういった点から、「みんなで育てるみよしっ子」をどのようなことを感じられていますか。</p>
富樫委員	<p>私は三好中学校で地域コーディネーターをやらせていただいています。コーディネーターは一体何をやるのかというところからスタートしました。幸い、山内先生が来てくださって、いろいろ勉強されたことを私たちに伝えていただいたことから、少しずつ進んできているように思います。コーディネーターがいろんなことを計画して、学校へもち込んで、「あぁしましょう」「こうしましょう」というのではなくて、先生方が、今一番困っていることから手をつけて、子どもたちと触れ合いながら進めていくのが一番ベストだという考え方で進めています。まず一番先生が困ってみえるのは学校内の雑草ということで、まずそれを。私たちは、やっていただく方をお願いする仕事ですので、三好いきいきクラブの方へ行ってお願ひして、強制ではなく、私たちはやりましょうというところで、12、13人ぐらいずつ2、3回やりました。朝から2時間ほどやっている時に部活もやっていました。休んでいけばいいのには思いましたが、子どもたちが、「どうもありがとうございます」とか、「手伝います」と言いながら、一緒に草むしりを手伝ってくれたりもしました。あと、特別支援の方の依頼で、短歌の説明を授業の始めの10分間でお願ひしたいということで、私は文化協会にも属していて、できそうな方を知っていますので、お願ひして来ていただいた事例もあります。最近では七夕に、2.5メートルを15本欲しいと言われたんですけど、笹はないんです。それで、打越の方にお願ひして、取りにいつていただきました。月曜日に見ましたら、もう笹が飾ってありました。</p> <p>子どもたちにお願ひされたことを、私にもこなせているということと、みんな喜んでくれていること、先生方も助かつ</p>

<p>鈴木誠直委員</p>	<p>ているだろうなという気持ちでやらせてもらっている現状です。</p> <p>本当に学校のニーズっていうのをきっかけにして、学校に入り込んでいただいて学校を支えていく、学校を支えていくと子どもたちを育てていくっていうことにも繋がっていますし、先ほど「ありがとうございます」と言ってくれた子どもたちは、前向きになっていっているのかなと思います。</p>
<p>春山委員</p>	<p>三好丘小学校は今年からということですが、どうですか。</p> <p>もともとは令和2・3年度は、先ほど富樫さんもおっしゃっておられましたけど、地域の方が草狩りのような除草作業とか、いきいきクラブの方が組織でやっていただける。それから、ボランティア団体を作ってやっていただける方もいる。個々でいろんな活動をされていて、大変ありがたい。こちらからお願いしますという以前にどんどんやってくさっている現状がありました。それから、授業にも小学校の場合、地域の方が入っていただいて、クラブ活動でグラウンドゴルフを子どもと一緒にやったりだとか、昔遊びを子どもと一緒にやったり、英語だけで買い物をするという活動をやっておりまして、それをPTAのOBの方が、人を集めてきて、外国語のやりとりを子どもと一緒にしてくれたり、様々な活動が実際に行われていました。現在も行われていますが、その反面、今までボランティアでやっていただいたような活動が、いろいろ問題もあってなくなってきたこともあります。家庭科の手伝いだとか、図書室のお手伝いとか、実際には力を借りるところは借りたくないというところがありました。それからもう一つは、外国人の子が1割ぐらい、家庭の支援を受けている家庭も1割を超える等、様々な家庭があるので、ただどのぐらい困ってるかというところまでは、十分掴みきれてないところもありますが、逆に学校が掴んでいるようこともあります。そういうような情報交換には地域の方も入ってきていただいております。昨年度末から考えると、その地域の方と、コーディネーターをお願いした方が3名みえるのですが、実際に家庭での子どもの指導だとか、家庭にいろんな困り感があることの共有をする機会がございますので、そこで実際に家庭の困り感を共有しました。そのコーディネーターの方と行政にも入っていただいて、家庭支援をしていただいています。本校の場合、民生児童委員の方で、子ども食堂だとか、いきいきクラブだとか、民生児童員の方に入っていただいて、どういう支援ができるかっていうことを考えて、それを上手に支援していただいた家庭もあります。いろんなものが準備できなくて、地域の方が家庭を訪ねて、困っていないですかと言って、随分と中学校入学に困っていることを全部助けていただいたというようなことがございます。それから、今、授業で入っていただいているいろんな活動がありますが、それについても、もっとこういうこともできますという提案をしていただいています。こちらで、その情報を生かして、今</p>

鈴木誠直委員	<p>実際にどのぐらいニーズがあるかということこれから調整していくという今段階になっておりまして、こちらから支援をしたり、授業でいろいろお手伝いをさせていただくつながりを今やっただいていてというところですよ。</p> <p>学校支援だけでなく、家庭支援というか、そういったことも協力していただける。中部小学校には、実はまだコミュニティスクールは立ち上がってなくて、今話を聞きながらやらなきゃいけないと思ってるのですが、ただ本校の地域の方々も本当に協力的で、実は校内に愛知県の形をしたビオトープを清掃してもらって、地域の方がメダカを100匹持ってきていただいて、それを2年生の子たちが1匹ずつ放流をして、メダカの観察ができました。今朝も池の周りには、子どもたちであふれていました。そういったことをこちらが提案しなくて、こういうことやるよと言っただけの方がいます。ですから、中部小校区は学校のためだと思ってやっていただける方がたくさんいるので、そういう方々がちょっと学校に来て、ちょっと草取りしていくよという制度を早く作っていく必要があると思っています。</p> <p>今日はいろんな立場の方もいらっしゃるのですが、それぞれの立場ではどうでしょうか。</p>
鈴木睦子委員	<p>やっぱり人の役に立ちたいと誰も思っています。でも、連携があがってくると、学校はもう敷居高いって言ったらおかしいですけど、そう思ってしまうと、なかなか接点が見いだせないですけども、今話されたように、コーディネーターの方だとか、学校にいらした方に話してくれたりして、学校へ一歩出る、その一歩が大事だなと思いました。だから、学校の困りごとから始められたって言われましたけれども、私たちが聞いて、一歩学校に踏み出せればと感じました。</p>
鈴木誠直委員 鈴木睦子委員	<p>学校も発信していく必要があるということですね。</p> <p>だから本当にコーディネーターとか、関わりのある方が、すごく大事なことだなと感じました。</p>
春山委員	<p>今私が思っているのは、学校からの情報と地域からの情報が上手に行き来できるといいなと思っています。そうすると、学校では、担当者がばらばらになっていたことが、コーディネーターの方に集まって、そこが一つ情報の収集場所になって、自分はとても期待しています。地域学校協働本部実施計画の中でも、これから作っていかうということになるので、そこに地域の情報が集まって、そこがうまくこう繋がっていくといいなあとということを思っています。それから学校の中に、コミュニティルームという部屋を、今作っていますので、そこに皆さんも気軽にきて学校の様子を見ていただいたりだとか、学校からも、そこに集まっていた方に、学校の様子をお伝えしたりだとか、そのようなこともできるような、学校がそういう場になるといいなということも思っております。</p>
鈴木誠直委員	<p>はい。内田さんお願いします。</p>

内田委員	<p>学校の意見も聞いて、双方向のマッチングで、一方通行の ことをしていくのではなくて、こうしようか、ああしようか と話し合えたら、もっと読み聞かせの時間も、もっともっと 素敵になるのではないかと感じました。</p>
鈴木誠直委員 柴田委員	<p>柴田さん、どうですかね。スポーツ推進委員の立場として。 私たちが提案しているのは、小さいお子さんでも、だれで もいつでもやれるような、そういったスポーツをどんどん体 験してもらおうというか、そういうことから、機会のお手伝い をと考えています。</p>
鈴木誠直委員	<p>小さいうちから、いろんなことを経験させるというのはと ても大事なことだと思うので、そういったことが子どもたち に、ゆくゆくはどこかで繋がって欲しいし、大事なことだと思 います。</p>
佐々木委員	<p>保護者の立場で、佐々木さんどうですか。 北中学校で今年度が立ち上がったコミュニティスクールに 学校評議員として参加させていただいています。基本方針と して、人手が足りないところで使うのではなくて、子ども たちが望んでやりたいけど、自分たちの力だけでどうにもな らないから、地域の人が協力してくれたら、うまくいくので はないかというところをマッチングしていくことで、立ち上 げて進んでいます。その中でも、情報発信がすごく難しいと 思っていて、学校でアンケートをとっていただいたんですけ ど、地域の防災訓練に参加する子どもたちが10%に満たな いぐらい少ない。もし機会があったら参加したいですかと聞 いたら、60%台が参加しますと。どこまで正しいかわから ないですけど、一応回答もありました。そして地域で防災やっ ていることを知っているのか、知らないのか。知らないでは ないか。そういう情報の発信が難しいなっていうのは、正直 に思っています。情報の吸い上げも難しい。子どもたちは、 こんなことしたいっていうのをどうやって吸い上げていく か、どう知らせていくか、どう協力を求めていくかというこ ろが難しいです。</p>
鈴木誠直委員	<p>地域のニーズという言葉もありましたが、学校が何かして もらうのではなく、学校から地域ということもあったと思 いますが、三好中学校は、子どもたちが地域へという、そう いうことはありますでしょうか。</p>
富樫委員	<p>生徒からの申し入れで、社会貢献活動って、自分たちの力 では難しいということで、昨年度は、地域の人とも一緒にや りたいという声が出て、回覧版でも回したような気がします けど、三好中では来ていただける方は一緒に清掃作業してく ださいというような形で、50人近くの方が出ていただいた ということがあります。</p>
鈴木誠直委員	<p>ありがとうございます。地域の方が参加ということはもち ろんですし、地域の方が子どもたちを巻き込んでいくとい うか、北中学校防災訓練のように、やはり地域で育んでいく には大切だろうと思います。大村先生、今までお話いかがです</p>

<p>大村委員長</p> <p>佐々木委員</p> <p>鈴木誠直委員</p> <p>佐々木委員</p>	<p>か。</p> <p>地域の活動で子どもたちが参加していくのは、やはり何らかの仕組みがないとやりにくい。渥美半島の田原市の福江中学校がありますが、コミュニティスクールとしていろんなことをやっています。その一つとして、「サンキュ福江」というのがあります。中学生が、住んでいる地域別に分かれて、その地域の人と一緒に、その地域を良くするために全体やれることはないだろうかと一緒に考えて、それを決めて、その日に一斉に中学生が地域でやっているんですね。それは、その中学生にとっては特別活動の一環。よく言われている地域に開かれたカリキュラムっていいですか、そのカリキュラムづくりを地域の人と一緒にこうやっていて、自分たちの力を生かせるだろうか、地域の人にとっては何が一番いいのだろうかって考えるととてもいい機会。それをやったことを、まとめているいろんな人に知ってもらおうと。ずっとやっているの、地域の方は分かっているの、中学生はいくらでも来てねというふうにやっていますけど、最初始めるときはやはり、コーディネーターの方が少し筋道を作ってあげないといけないと思いますが、一方的じゃなくて、一緒に考える機会つくる、とても面白いと思います。</p> <p>いいですか。地域で、ゴミゼロ運動とか、防災訓練をしますが、そのちらしが入って、参加する家庭と参加しない家庭があります。でも、ゴミゼロ運動は、中学生が率先して出てくれています。夏祭りのときは、小学生対象に或いはゲームをお手伝いしてくれたりしてくれています。コロナでなかったのですが、引き継がれてやってきている部分もあります。</p> <p>改めて振り返ってみると、そういったことをずっと続けてやっていることもたくさんあるということですね。</p> <p>そうそう。中学生と触れられる。こういう地域のごみゼロ運動とか。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>ありがとうございました。事務局の皆さんは自席にお戻りください。それでは、協議内容を共有したいと思いますので、各グループで話し合っていた内容を、ご紹介ください。</p> <p>Aグループ発表</p> <p>Bグループ発表</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>長時間にわたってご協議ありがとうございました。非常に多彩なお話が出ていますので、まとめるというふうにもできませんけれども、少しコメントをさせていただければと思います。地域、学校、そして家庭、そうしたものを結んでいく問題意識は非常に高いということは分かってきました。そしてまた、学校でもそうした実践がかなり行われてきていると。</p>

	<p>Bグループでは、富樫委員さんが、実際に地域コーディネーターとして、結びつけている実践についてお話をいただきましたし、そうした情報をとということもありますけども、それを繋いでいく人が、増えていくということが、おそらくその情報の流れを潤滑といいますか、円滑に進めていく情報の運び手になるのではないかなと思います。まだ今日のところは、あまりトラブルということは、御報告ありませんでしたけども、学校と地域とか、或いは家庭も様々です。行き違いとかはあると思うのですが、そこをうまくつないでいくのも、おそらくコーディネーターの方々に、だからこそ、非常に御苦労もおかけするのですけども、そうした相互理解っていうのは、こうした子どもたちを育てていく上ではとても鍵になります。先ほど、Aグループの方で、家庭と学校と地域の三つの居場所っていう話がありましたけれども、私も子どもの居場所についてはすごく関心をもっていて、日本財団という団体がございすけども、ここが2020年に調査をしまして、その家庭、自分の家庭とか、或いは育った施設を居場所と感じられない子ども、家庭を居場所と思えない子どもが16.8%います。ですから、それは虐待の問題であるとか、或いはその虐待もいろんな虐待がありますけれども、例えば、最近の動きでいくと、必ずしも貧困ではないけれども、教育虐待っていうことです。いろんな習い事とか塾とか、親としてはよかれと思っていろんな体験をさせたいと思って、子どもの自由時間を奪っていく。その度が過ぎていくと、その子どもたちがどんどん元気を失っていくという虐待もあります。そうした中ではやはり、子どもたちは自分のこういうことを聞いてくれないと、話せる人がいないという形で、居場所感を失ってしまいます。さらに言うと、家庭以外に場所があれば、例えば学校であるとか、或いは地域社会、サードプレイスっていうふうに、第3の場所って言ったりもするんですが、そうしたところに居場所があればいいのですが、家庭にも家庭以外にも居場所がない、そういう子どもたちが8.6%と結果が出ています。ですから、自分が落ちつける場所、安心できる場所がどこにもないという子が8.6%もいるというのは少しびっくりしてしまいましたが、これはコロナ以前の数字ですので、コロナ禍で、さらにそれが上がってしまっていないかどうか、そういったことが少し気になるわけです。ですから、学校、地域、家庭、そうしたところで、今日情報って話がありましたが、それは学校の情報とか家庭、地域の情報というだけではなくて、子どもの情報を掴まないといけないというふうに思っています。子どもがどう考えてるのか、どう感じているのか、そういった意味で、今年そのアンケートをとられるのは、とても楽しみにしていまして、子ども自身がどう考えてるか、ぜひ掴んでいただいて、今後の計画の進行に役立てていただきたいと思います。ありがとうございます。それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>
--	--

<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>ありがとうございました。今後の予定等について、事務局から説明させていただきます。</p> <p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の日程 <p>以上をもちまして、第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会後、終了させていただきます。交通安全に気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。</p>
----------------------------	--